

## ハンノキハムシ

6～8月にハンノキ属の葉を食べる小形の甲虫（成虫）またはイモムシ（幼虫）。成虫は体長6～7mm、全体黒青色、触角が長い。幼虫は終齢で体長12mm。全体黒色、または黄土色の地に黒い斑紋が多数ある。体の前方下側に3対のくの字状の脚（あし）がある。尾端が吸盤状。イボ状の脚はない。

幼虫は葉の表面を削り取るように食べる。食害を受けた葉は枯れて目立つ。ハンノキやケヤマハンノキでしばしば多発する。ごくまれながら食害で木が枯れた例がある。その他の広葉樹にもつくるとされるが、多発することはないようである。



1. 幼虫，中齢，体長6mm，1991/7/12.



2. 幼虫，終齢，体長9mm，1991/7/20. 1を飼育.



3. 成虫，体長7mm. 1を飼育.

1～3. 新得町，庭のハンノキ.

【学名】 *Agelastica coerulea*

【分類】 コウチュウ目（Coleoptera），ハムシ科（Chrysomelidae）

【分布】 北海道，本州，四国，九州；シベリア東部，朝鮮半島，中国東北部。

### 【特徴】

ハンノキ属には他にルリハムシ，トホシハムシ，ミヤマヒラタハムシなどよくみられる。ルリハムシは幼虫の色彩や形態がかなり異なる。トホシハムシとミヤマヒラタハムシの幼虫はどちらも発生時期が6月と早い。また，トホシハムシの幼虫は体が後方で太くなり，葉を縁から食べる。ミヤマヒラタハムシの幼虫は体が後方に向かって細くなり，穴を開けながら葉を食べる。

【生態】

宿主：ハンノキ属（ハンノキ，ケヤマハンノキ）。ほかにヤナギ科（ドロノキ，ヤナギ属），カバノキ科（クマシデ属，ハシバミ属，カバノキ属），ブナ科（クリ），ニレ科（ニレ），バラ科（サクラ，リンゴ，ナシ）も食べるという。

年1回発生。成虫越冬。成虫は6月頃に現れ，葉を穴を空けるように食害する。卵は黄色で，葉裏にまとめて産み付けられる。幼虫は7月に出現。葉肉だけを削るように食べる。7～8月に地中で蛹化する。夏に成虫が羽化し，葉を摂食した後，秋に落葉中や地中に潜り越冬する。

発育ステージ	～3月	4	5	6	7	8	9	10	11～
成虫（+越冬，●摂食）	+++	+++	++●	●●●	..	..●●	●●+	+++	+++
卵				..○○	○..				
幼虫（摂食・成長）				..■	■ ■ ■	..			
蛹					..◇	◇◇◇			

【被害と防除】

被害は1～2年で終わる。食害により木が枯れた例が知られているが，ごくまれである。多発しても放置して終息を待つ方がよいと考えられる。

【文献】

1953. 井上元則. 林業害虫防除論，中巻. 293p. 地球出版，東京。（形態，生態，防除）

1963. 中根猛彦ほか. 原色日本昆虫大図鑑Ⅱ（甲虫篇）：1-18, 1-443, pls 1-192. 北隆館，東京。（分類，形態）

1977. 小林富士雄. 緑化樹木の病害虫（下）害虫とその防除. 290pp. 日本林業技術協会，東京。（生態，防除）

1977. 山口博昭. III虫害. 横田俊一他，北海道の森林保護：84-133. 北方林業会，札幌。（生態，被害）

1985. 農林水産省林業試験場北海道支場保護部. 北海道樹木病害虫獣図鑑. 223 pp. 北方林業会，札幌。（生態，被害，カラー写真）.

1994. 木元新作，滝沢春雄. 日本産ハムシ類幼虫・成虫分類図説. 539p. 東海大学出版会，東京。（分類，形態，生態）

1994. 奥田素男. ハンノキハムシ. 小林富士雄，竹谷昭彦編集. 森林昆虫，総論・各論：355-356. 養賢堂，東京。（形態，生態，防除）

北海道立林業試験場・緑化樹センター

ハンノキハムシ hamusi/hannoki/  
kaisetu.htm

「文章」原秀穂，北海道立林業試験場，1992/3/4-2001/12/12.

1yochu1.JPG, 1yochu2.JPG, 1seichu.JPG

